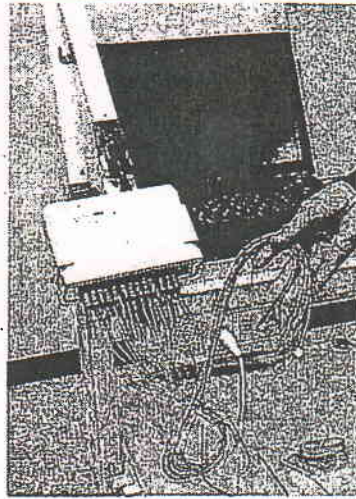


胎児の心電図

より正確に

東北大は胎児の心電図をより正確につくれる医療機器を国内メーカーと共同開発し、臨床試験を始めたと発表した。今後、性能の実証を東北大病院で進め、数年以内の実用化をめざす。



胎児の心電図をより正確につくれるという医療機器。電極を妊婦のおなかに置いて測る。東北大病院

東北大、15年がかりで機器共同開発

心電図は心臓の拍動に伴う電気信号をとらえて目に見えるようにする。ただ、胎児の拍動は信号が弱いうえ、信号を検知する電極を直接あてられないため、母親の拍動の信号に隠れてしまいがちだ。現在、胎児の心拍をみるのに一般的な分娩監視装置は超音波を使っているが、胎児の健康状態は把握しにくかった。

そこで東北大医学部の木村芳孝教授（産婦人科）らは、電気信号をとらえる電極を改良。母子の心拍のまざった信号から胎児の特徴的な信号だけを抽出することに成功した。15年がかりだった。

木村教授は「胎児が元気かどうか、より正確にわかるようになった。新しい装置を世界に広めたい」と話している。（福島慎吾）